



秋のエコウォーキング



平成 29 年 11 月 26 日 (日)

参加者：一般 15 人 オイコス 13 人 合計 28 人

▼安養院にて



昨年 11 月、高く澄んだ秋空のもと、花輪川・桑納川周辺を中心としたゴミ拾いと田園地域の歴史散策の秋のエコウォーキングを実施しました。参加者は約 30 名。

まずは、100 年以上の歴史を刻んでいる 4 棟の長屋門を見学し、その後、八千代市周辺の地域に江戸時代ごろからあるという四国八十八箇所霊場を写した吉橋大師八十八ヶ所霊場第二番札所の安養院で八千代の歴史を感じ、昔に想いを馳せながら晩秋の八千代の里山を楽しみました。

その後、参加者が二組に分かれ、桑納川兩岸をゴミを拾いながらウォーキングを行いました。花輪川で再び合流し、第一番札所、第二十番札所のある貞福寺を經由し、花輪川のゴールへ約 2 時間のコースを終了しました。最後に、暖かい高秀牧場の搾りたての牛乳いただき、無事エコウォーキングを終えました。

桑納川、花輪川付近のゴミは以前より少なくなっていますが、それでもまだまだゴミがあります。人間にとって水は生きてゆくために必須の物質です。飲料水、食事、風呂、洗濯、農業、工業用などに欠かせません。花輪川は桑納川、新川を通して、印旛沼までながれていきます。これからも生き物が住める環境づくりに貢献していきたい、と改めて感じました。

私は今回、実行委員の一人として参加しましたが、日程、コース設定、下見、資料づくり等調整の難しさ、楽しみを感じました。これからも、花輪川の整備を通して、メンバー、市民の皆さんとふれあいができる機会を実施したいと考えています。(実行委員 藤田)



4 棟の
長屋門

編集後記

八千代オイコスかわら版の名編集者、故田邊さんの後を引き継ぐことになり、困惑することしきりですが、何とか今号の発行に至りました。今後ともよろしくお祈りします。編集に手間取っている間に、八千代オイコスでは、春のエコウォーキングや次年度の米づくりについて話し合いを始め、次年度の総会の準備も着々と進めています。次年度は各事業がどんなふうバージョンアップしていくか、乞うご期待です。(NONN)



発行責任者：川瀬 純一
問合せ☎：047-459-0025
mail：info@yachiyo-oikos.jp

～～よみがえれ花輪川～～

八千代オイコス かわら版 第 36 号



平成 30 年 2 月 1 日発行
NPO 法人八千代オイコス
<http://www.yachiyo-oikos.jp/>



印旛沼舟戸初日の出 撮影者：オイコス 川田



新しい年を迎えて 一川に学ぶ子ども達を想う

八千代オイコス代表理事 川瀬純一

皆様新年あけましておめでとうございます。

昨年は新しく、頼もしい仲間が 4 名も加わり活気ある一年が過ごせました。一方では、オイコス設立以来行動を共にして来た仲間を失う悲しい場面を二度も経験しました。

私の代表就任以来のテーマとしてきた、「活動の継続性は組織の若返り」が必要です。その為には常に新しい仲間を増やすことが大切であると申し上げてきました。

しかしながら、どこの団体にも共通の問題として悩ましいことである若い人の参加がままならない現状があります。力強い仲間の増えたことをきっかけに、更に新たな会員増員の努力を続けて行きたいと思っています。

さて、オイコスは花輪川に拠点を置いて活動を続けて 16 年になりますが、スタート時より一貫して花輪川を通して「水」と係わる活動を進めてきました。

「花輪川をきれいにするのが印旛沼の浄化に繋がる」を事業活動のテーマとして、その延長線上に<川の学校>が誕生しました。

近年、子ども達と自然のつながりの接点は極めて薄く、我々子ども時代と比べれば大きな差です。<川の学校>を単なる夏休み行事ととらえるのではなく、「地域の中で年齢の異なる子ども達が互いに影響し合って育てられていくような、“地域教育の場”」となるような思いを持って進めていきたいと願っています。

川に棲む生き物にとって、川の水は私たち人間にとっての空気と同じです。汚れた水には生きることできません。様々な生き物や水草にとっての生態系を保っていることを知って貰いたいと思います。

これからもオイコスの<川の学校>が“地域教育の場”として自信を持って子ども達と一緒に活動が続けていきたいと思っています。